



北原 荘だより

第99号

2025.1

編集発行 特別養護老人ホーム
北原 荘

〒966-0902 喜多方市松山町村松字北原3656-11

電話 0241-24-4567(代) <http://www.tenshinkai.or.jp>

年頭のごあいさつ

施設長

渡部 由希子

新年あけましておめでとございます。

利用者の皆様、ご家族の皆様、関係機関や地域の皆様には、旧年中、大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

二〇二五年、北原荘は開設四十三年目に突入します。このうち十八年を私は生活相談員として過ごし、昨年七月に施設長に就任いたしました。それまでは自身の職務を全うすることで精一杯でしたが、立場が変わって施設全体を見渡す中で、職員の一ひとりが、利用者様のため、より良い施設づくりのため、地域の福祉のために、真摯に仕事に取り組んでいることに改めて気づかされました。

当施設の介護員は、トイレでの排泄など利用者の尊厳を守り、自立を支えるためのケアを多忙な業務の中にあっても怠ることなく実践しています。看護職員や看護補助員は、経管栄養、透析、吸引などの医療的ニーズに責任を持って対応し、介護員と連携しながら看取り介護にも積極的に取り組んでいます。給食職員の提供する食事は、病院食とは異なり、生活の場にふさわしい食事内容で、利用者様から好評を頂いています。生活相談員は、緊急のショートステイのニーズ等にも迅速に 대응、居宅介護支援センターの介護支援専門員は利用者や家族に寄り添った相談支援を行い、住みなれた地域での暮らしを支えています。機能訓練指導員は、訓練に止まらずアクティビティの支援も行い、すべての職員が安心して働けるようサポートしているのは事務員です。

自画自賛のようになってしまい恐縮ですが、このような職員とともに心を一つにし、歴史が古いだけの施設に成り下がることのないよう、地域に目を向け、社会の変化、ニーズの変化に柔軟に対応し、チャレンジのできる施設でありたいと思います。同時に、職員モットーである“笑顔と真心”を胸に止めて、この地域に北原荘があつて良かった、と皆様の心の拠り所のような存在になれるよう精進して参ります。今年の干支「乙巳（きのとみ）」——脱皮を繰り返す蛇のように、私たちも日々成長していきたいと存じますので、本年もご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



餅つき会



一月八日、今年も無事に餅つき会が開催されました。感染対策のため、密にならないように実施しました。

室内は蒸かしたもち米の香りが漂い、皆さんの元気な「よいしょ、よいしょ」の掛け声と杵で打つ「ぺったん、ぺったん」の音のコーラボレーションで、一気に美味しそうな餅がつきあがりしました。

昨年末、新型コロナウイルスの影響により居室で過ごす時間が多かったため、久しぶりに利用者の元気な声と笑顔が見られ、職員も元気をたくさん頂いた一日でした。少し軟らかめの餅でしたが、昼食時に一人ひとりに合わせた形態で提供され、美味しく召し上がって頂くことができました。

本年も幸多き「巳（み）」のりの一年になりますように。